

令和3年度予算をこう評価する

3月12日の本会議において、令和3年度一般会計予算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

区民が真に求めるサービスを適時適切に届けることができるよう一層努力することを要望し、賛成
自 民 党



自由民主党荒川区議会議員団は、本予算の編成にあたり、区民が真に必要とするサービスを着実に実施し、区民の不安を解消し、安心・安全に暮らすことができる街づくりを目指し、12の重点項目をはじめ、300を超える事項について、積極的に推進していくよう要望した。

区はこの要望を踏まえ、内部努力の更なる徹底や事務事業全般にわたる再点検・見直しを図る一方、直面する重要課題や区民生活に的確に対応した施策に財源を重点的かつ効果的に配分しており、改めて区の努力を高く評価する。

我が党が要望した主な施策について述べると、災害対策では本庁舎及び北庁舎屋上に非常用発電機整備の完了、子育て支援では令和5年度の開設に向けた児童養護施設の整備、産業振興では区内事業者支援の継続実施等を高く評価する。

これらの他にも、我が党は予算に関する特別委員会における質疑を通じて、具体的に確認を行った。主なものを挙げると、図書館員による推薦本の紹介・読書の街宣言の条例化や家読(うちどく)のすすめ、虐待対応ダイヤル189の普及啓発、あらかわ遊園における夜間イルミネーションの通年実施、新病院における病床の確保と開設までのロードマップ、脱炭素社会の実現に向けた環境対策、都電荒川線における車両の段差解消や乗務員のサービス教育等について東京都への要望、西日暮里駅前地区再開発に対する区の決意・魅力や集客力のある商業施設の誘致、教育理念を重視したデジタル教科書の補助的活用等である。

ここで3点、強く要望する。新型コロナウイルスワクチン接種を安心して受けられる環境づくりと、きめ細やかな情報発信。東京女子医科大学東

医療センターの移転にあたり、医療体制の空白を短くし地域の賑わい創出に努めること。新型コロナウイルス感染拡大防止と経済の両立に向けて事業の見直しと創意工夫を行うこと。

最後に、新年度の予算執行にあたり、区民の皆様が真に求めるサービスを適時適切に届けることができるよう一層努力することを要望し、また、自由民主党荒川区議会議員団も、執行機関との良き緊張関係を保ちつつ、今後とも西川区政を支えていくことを表明して予算案に賛成の討論とする。



都電荒川線熊野前駅の様子

区民生活の向上に一層努力することを要望し、賛成

公 明 党



令和3年度予算は、西川区長第5期目に就任され最初の予算である。新型コロナウイルス感染症対策経費へ重点的に予算配分し、福祉施策の充実や子育て環境の整備、防災対策の強化、区内経済や文化活動の活性化に取り組むことで、すべての区民が幸福を実感できるよう思いが込められたものと受け止めている。

私たち公明党荒川区議会議員団は、「現場第一主義」の考えに則り、本予算の編成に先立つ昨年9月、144項目に及ぶ令和3年度予算に関する要望書を西川区長へ提出した。区は、この要望を受け止め、「区民の命と健康を守り、安心・安全な暮らしを支える予算」として本予算を編成した

ものと高く評価している。

具体的には、新型コロナウイルス感染症対策としてのエッセンシャルワーカーへの支援強化、地域防災力を強化させる避難所の開設・運営訓練などが予算化されており、限りある財源を重点的・効果的に配分したものとなっている。

また、予算に関する特別委員会においても、読書のバリアフリーの推進、子どもの権利条約の制定と普及啓発、ワクチン接種の着実な推進と感染拡大防止の強化、廃食油のリサイクルや環境学習の観点からの取り組み、樹名板の設置や公園トイレの改修の促進等について提案した。これらを今後の予算執行等に反映し、国や都の補助金を積極的に活用しつつ、区民生活の向上に一層努力することを要望して本予算案に賛成の討論とする。



PCR検査の様子

どもや女性、貧困・孤立に苦しむ区民への支援が不足している。

今回、共産党荒川区議団は、予算組み替え動議を初めて提出した。予算の1%10億円規模の組み替えで、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の強化、市街地再開発事業の削減等を提案した。

また、予算に関する特別委員会においても、人権問題・ジェンダー平等を重点課題とし、高齢者支援としての補聴器購入助成、子どもの権利条例の実現、生活困窮者への支援の充実、東日本大震災から10年経過という節目において、不燃化特区事業等の防災対策の推進などを求めた。課題が山積する中、実態を把握し、国や都への要望を行うこと。そして区民に寄り添う予算とすることを求め、反対の討論とする。



荒川区の不燃化特区地域

コロナ禍での暮らし応援が不十分、大規模開発は見直し、区民に寄り添う予算を求め、反対

共産党

反対

本予算案は、コロナ感染拡大の危機を乗り越え、区民を守るには不十分な予算であり、反対する。

反対する理由の第1は、新型コロナウイルス感染症対策が不十分であること。ワクチン接種と並行してのPCR検査の継続・拡充や、医療従事者への支援が足りない。第2に、財政危機の中での大規模開発事業の推進は容認できない。区民合意が得られないまま見直しせず進めることには賛成できない。第3に、中小企業・小規模事業者への支援が不十分であること。ものづくりのまち荒川を支える中小事業者を大切にする視点が欲しい。第4に、生活困窮者への支援が足りないこと。子

非常時だからこそ、より効率的で柔軟な事業展開を願い、賛成

立憲・ゆい・無所属の会

賛成

コロナ禍における予算に関する特別委員会では、①区民の命と健康、生活を支える予算となっているか、②将来を見据えた財政運営となっているか、③長期的な視野で見て必要な施策は展開されているか、という視点で審議にあたった。

質疑においては、新型コロナウイルス感染の後遺症の方への対応と社会的理解、ひとり親家庭や生活困窮者支援の充実、山吹の花を絡めた太田道灌魅力発信事業の推進等について取り上げた。

新年度には、新型コロナウイルスワクチン接種という大きな取り組みが始まるなか、変異ウイルスの感染拡大、第三波の収束も課題である。

「明けない夜はない、止まない雨はない」、そう信じて、国民一人一人が、医師が、そして何よりも政治がそれぞれの役割を果たしていくことが肝心であると考えます。

「荒川区に住んでいて良かった」と誰もが実感できるように、予算執行にあたっては、こういう非常時だからこそ、より効率的で柔軟な事業展開とすることを願い、賛成の討論とする。



◀ 新型コロナウイルスワクチン
集団接種訓練の様子

持続可能な自治体を目指し、
様々な工夫を凝らした予算を高く評価し、賛成

維新・あたらしい党



令和2年度、維新・あたらしい党より複数回にわたり緊急要望を行い、HPVの普及啓発、成人式の代替イベント、幼児期の体力向上に向けた教育等を提案してきた。

また、予算に関する特別委員会においても、議会及び区のSNSにおける情報発信、特殊詐欺・防犯等への取り組み、高齢者の安全な居場所づくり、飼い主のいない猫の保護シェルター設置への助成、路上喫煙の取り締まり、子どもたちにとってのボール遊びや体験活動の必要性等、多岐にわたる質疑や提案を行った。中でも、HPVの普及啓発については、あらかわ遊園の観覧車のライトアップ等、区の尽力の成果が表れ、ワクチン接種率が日本の平均を上回って年々上昇し、より多くの未来の子ども・母親の命が救われた。

今後も、幸福実践都市荒川区として、誰もが安心・安全に住めるまちづくりを期待する。

持続可能な自治体を目指し、新型コロナウイルスが蔓延する中であって、様々な工夫を凝らした

今予算を高く評価し、賛成の討論とする。



◀ 子ども達の遊びを通じた
体力づくりの様子

コロナ対策の強化と生活困窮者
への保険料等負担軽減を求め、
反対

あらかわ元気クラブ



新型コロナウイルス感染者数が下げ止まる中、感染防止対策として、エッセンシャルワーカーへの定期的なPCR検査、そして医療・介護従事者への再度の支援金給付も必要と考える。医療や介護従事者の離職がこれ以上進まない対策を求める。

また、失業などによる生活困窮者の増加の中、区民の生活と命を最優先せず、さらなる困窮に追い込むような負担を伴う予算に反対する。

最後に、三河島北地区・西日暮里駅前再開発について、駅前に高層マンションありきではなく、防災対策等を重視した開発はないのか。地域住民への説明も足りず、納得のいく予算計画もない。コロナ禍で人口動態も変わり、税収も減少が見込まれる今、再開発計画は変更し、健全な区政運営を求め、反対討論とする。



◀ 三河島駅の北側より